【担当教員名】	対象学年	2	対象学科	理学・作業・言語
 宮岡 洋三、蘆田 一郎	開講時期	前期	必修·選択	必修・必修・必修
日門 才一、儘出 叫	単位数	1	時間数	30

【概 要】

先の「生理学実習Ⅱ」では、自分や同級生を対象に各種の生理機能を実験的に調べた。ここでは、動物を対象とした実験を加えて、神経や筋の生理学を実習する。最初に、動物実験の心得と計測機器の取り扱いを学ぶ。次いで、神経線維に発生する興奮(活動電位)や骨格筋の収縮、あるいは脊髄レベルでおこる反射について観察、記録する。さらに、これらの実験で得た知識や経験を基に、再び自分や同級生を対象として、誘発脳電位の記録や姿勢制御の実験をおこなう。最後に、全員で一連の実習内容を発表ならびに討論し、本科目の総括とする。

【学習目標】

- 1. 「生理学実習」用のウェブサイトにアクセスして、実習資料を入手する。
- |2. 入手した実習資料を基に、実習遂行に必要な知識を整理する。必要ならば、図書館などで参考図書に当たり、資料を適宜加工する。
- 3. 各実習の冒頭にある「小試験」によって、整理した知識の完成度を知る。
- 4. 実習に参加して(【履修上の留意点】を参照)、「身体」を通しその内容を把握する。
- 5. 実習終了後、「データ検討会」において「レポート」や「発表会」の着眼点を吟味する。
- 6. 実施内容をレポートとしてまとめ、提出する。レポートの適切さに関する評価を受ける。
- 7. 「生理学実習」用のウェブサイト上に掲載されるコメントを参照にして、レポート作成の問題点を知る。
- 8. 発表会に備えて、スライド作成を通して、プレゼンテーション技能を身に付ける。

l l				
回	授業計画又は学習の主題	SBO		•
数		番号	学習方法·	学習課題又は備考・担当教員
1	実習ガイダンス 実習用動物と機器(電気刺激装置、オシロスコープなど)の説明		実 習	···
2	脊髄機能 カエルの麻酔・解剖、各種脊髄反射の観察		実 習	
3	運動機能 川 神経筋標本による骨格筋の収縮、神経の興奮伝達		実習	
4	興奮性膜 活動電位(Action potential)の観察、伝導速度の測定		実習	
5	高次脳機能 誘発脳電位(Evoked potential)、姿勢制御の実験		実 習	
6	合同発表会 3学科(理学・作業・言語)の全グループによる実験データの発表および討論		実 習	
ŀ				
ł				

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>			
教科書	「生理学実習」ウェブサイ	٢					
参考書	生理学に関する各種の書籍が本学の図書館に用意されているので、自主的に参考にして欲しい。						
その他の資料・各種のビデオも本学の図書館に用意されているので、それらも				参考にして欲しい。			

【評価方法】

Γ<u>μ</u>:

【履修上の留意点】

「出席」、「小試験(毎回実施)」、「データ 検討会(毎回実施)」、「レポート」、ならびに 「発表会」の結果を積算評価する。 「生理学実習」ウェブサイトには、先輩が作成・提出したレポートに対する大量のコメント集があるので、「共有財産」として末永く、積極的に参照して欲しい。

なお、客観性と公平性の確保が困難な「実習態度」は評価対象としないが、明らかに 他人の迷惑となっている場合には、退室を求めることがある。